

# 東京白楊丘より



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校 函館中部高等学校

ホームページアドレス <http://h6.dion.ne.jp/kanchu/>

第30号

平成19年.9.15

(2007年)



写真提供：67期 吉岡直道氏(函館在住・吉岡写真館)

## 支部長ご挨拶



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

金子 公彦

61期(昭和34年卒)

皆さん お変わりなくお元気にお過ごしのことと拝察致しております。

平成19年は、暖冬で始まり平均気温が5 程高く、新潟県ではスキー場は泣き、ゴルフ場は笑い、札幌の雪祭りも散々な状態、青森の冬祭りは中止、榛名湖の公魚釣は湖面の氷が本来15センチは必要なところ10〜0センチでこれも駄目。単なる泣き笑いだけでは済まされない状況でした。

また、以前はエルニーニョ現象、最近はラニーニャ現象で今夏は例年より猛暑の予測や反対の冷夏の話など気象予報が交錯してありましたが、35 を超える日々が多い例年にならない蒸し暑い夏となりました。自然界のみならず、世界各地での紛争、エレベータや遊戯機械、エスカレータの事故、各食品問題、更には米中に於ける橋の落下やロシアでの列車爆破など、心を痛める事故が依然として起きております。

自国だけでなく世界的規模で対応していかなければならない地球温暖化や隣国からの環境汚染の問題、信越沖地震でクローズアップされた原発の耐震性・安全性の問題等これからの課題が山積しております。

このような中、私共東京支部に於きましては勿論改善していかなければならない事項は沢山ありますが、懸案の決算では前年度に引き続きわずかではあります、黒字化を達成することが出来ました。これも偏に役員はじめ各期の評議員はもとより会員各位の大変なご協力の賜物と心から感謝申し上げます。私が支部長を拝命して丸四年が経過致しました。改革、改善へはまだ道半ばではあります、別な表現をしますと永遠に続くともいえません。若年層の取り込み促進、会費納入者の増大化、名簿の整備、各期評議員の更なる活性化、HPの更なる充実、定時制の方々のご参入、ドキュメントの標準化、支部運営のシステム化等々枚挙に暇がありません。これらの展開を更に継続して頂くにも若い力が必要と考え、私はこの親睦大会で退任し、67期の安田康次氏へ支部長をお願いすることに致しました。これまでのご厚情にこの場をお借りし感謝申し上げます。

# 二十一世紀にはばたけ

函館中部高等学校長 古林 由則



はじめに

白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様には、日頃より母校への熱いご支援と温かい激励を賜り、心より感謝申し上げます。

## 今春の卒業生進路

本校の現役大学合格者が延べ二二八名、うち国公立大学合格者は二桁で推移しました。(今年度合格者は微増)ただし、六学級(定員二四名)になって、国公立大学への出願者数が一五〇一六

大学合格者のべ数(6学級)

区分	平成19年度		平成18年度		平成17年度	
	現役	過年度	現役	過年度	現役	過年度
国公立大学	85	32	81	31	77	35
私立大学	134	62	119	79	135	81
その他・準大学	3	0	2	3	1	3
短期大学	6	0	9	3	10	5
3年次在籍	240		234		231	
国公立出願	154		162		169	
国公立2次受験	147		150		161	

名前後と伸びません。合格率は約六%と上がっているものの、ここが一つの壁になっています。また、私大受験者数も三年前の延べ三三三名が今年は一七九名でした。学校をあげて生徒の志望が叶うよう努力をしていく所存です。

## 全国に発信(SELHi)

平成十八年度から文科省の再指定を受け、英語でのコミュニケーション能力の研究開発を実践しています。その取組が全国から高く評価され、早々に新聞報道されました。(読売新聞全国版及び英字新聞でも)今後とも英語力を駆使して世界中で活躍する生徒が育って欲しいものです。

## 伝統の壮行会

五月十六日(水)七時開演、体育館で春の大会に出場する選手を激励する壮行会が開催されました。生徒会長佐藤君から「選手の皆様さんの健闘を祈ります。」の激励に選手からは「悔いなく頑張るので応援してください。」の力強いメッセージがありました。文武両道が生徒の合い言葉、体育系、文化系合わせて九割の生徒が部活動に参加しています。



## 燃えた白楊祭

中部高校第五八回白楊祭が七月二日から三日間の日程で開催されました。今年は「夢幻の舞台へ」がテーマ。初日のクラス対抗パフォーマンス(千代台陸上競技場を借り切った一大イベント)に始まり、二日目は、アテネ五輪シンクロナイマーの武田美保さんを迎えての講演会と一般公開。三日目の模擬店、展示、バザーと生徒が繰り出すアイデアが一杯、盛りだくさんの内容となりました。併せて恒例になっている母の会パ



ザー(母親が作った白楊オリジナルグッズの販売)と親父の会バザー(野菜・花の販売)も大盛況。定時の模擬店も頑張って、祭り一色の三日間となりました。生徒達にとって最高の思い出になりました。

## 中部高校母の会

本校のPTAには「母の会」なる組織があつて、昭和二十五年の誕生から現在まで、活発な活動で知られています。時代と共に変化はあるものの教養講座の開講や研修旅行など、互いに子を育てる母親としての情報交換やコミュニケーションの場として大きな役割を果たしています。中でも三十年ほど前に考案された「白楊まんじゅう」は「合格まんじゅう」とも呼ばれ、他校からも人気があつたようです。今では本校のオリジナルお菓子として評判です。創立百周年の時に和風のまんじゅうから洋風のパイに衣を変え、その後幾度

か味や形に改良を加えて、今のうぐいす餡とママレード味の白楊パイになりました。(母の会五十年の歩みより)現在、会長の飯田正子さんを中心にもますます盛んに活動を展開しています。

## 校長雑感記

最近、テレビのコマーシャルでも流れる「江戸しぐさ」が一寸した話題となっています。江戸時代と言えは身分制度があつて、雁字搦め(がんじがらめ)の窮屈な世を想像しがちですが、案外そうでもなかったようです。三代続いたら「江戸っ子」。元々各地から出てきた人たちが身分や門閥、血筋に捕らわれない自由を粋とする気質を作り上げました。その江戸っ子が基本に据えた子育ての基本があります。「三つで心、六つで躰、九つで言葉、十二で文、十五で理」の教えです。三歳までに素直な心を育て、六歳になったら振る舞いに節度を持たせ、九歳では人前で恥ずかしくない言葉遣いができる。十二歳になったらきちんとした文章が書けて、十五歳になったらものの道理が分かるように教育する。今でも立派に通用する教えではありませんか。

## 終わりに

朝、生徒玄関で「おはよう」と声をかけています。「おはようございます」と返しがあつて、気持ち良く一日がスタートできます。

# 第30回 親睦大会 報告

平成18年9月13日に青山ダイヤモンドホールにおいて開催された親睦大会の様を、担当期(76期)の白川正広氏が報告します。  
大会のハイライトは、ニューヨークの「コットンクラブ」でハウスピアニストとして活躍中の76期加茂紀子さんを招いてのジャズ演奏でした。  
故郷函館と母校への想いを共有する200余名、最大年齢差75歳の「仲間」が集う宴となりました。

昨年までの大会は、懇親パーティーの前に演奏会あるいは講演が行われるという形が多かったが、今回の76期の企画は、懇親パーティーのなかに、ジャズ演奏を取り入れたものであった。



司会は、76期の西谷康紫氏と78期の岡部あさ子さんが担当した。宴に先立ち、52期以前の旧制卒業生が壇上に上がり、63期土橋道子さんの歌唱指導、78期の島津路郎氏のピアノ伴奏によって、同窓会歌「旧制・函館中学校校歌」を

冥の北の一道……」を、出席者全員で斉唱。会場は一挙にいつもの同窓会の雰囲気につつまれた。

続いて、支部長の61期・金子公彦氏が「東京支部の財政は昨年度、わずかではあるが各位の努力により黒字化を達成できた。磐石な体制にしていくためにはさらに改革が必要。御高齢の皆様からの御寄付にも感謝する」とあいさつした。

方々の紹介が行われた。来賓を代表して、まず、三ツ谷同窓会長が、「昨年の函中110周年式典には東京支部からも大勢の御参加に感謝する。祝賀会では最高齢参加者の東京支部の佐藤氏に乾杯をお願いした。宮城支部及び函館の定時制の同窓会も本日、開催される。今後、各支部の連携を強化し、大会の日程が重ならないよう調整を図っていきたい」とあいさつされた。

本庄教頭からは、最近の母校の様子にもふれ、「生徒は、文武ともにめざましい活躍をしている。高体連の各種目、特に、野球部が全道大会に出場した。また、3年間の文部科学省のプログラムに加えて、北海道教育委員会から理数科目の学力向上プロジェクトの指定を受け大学合格実績を伸ばしている。伝統を受け継ぎ、50年のスパンで世界に通用する人物を輩出する学校にしていきたい」とあいさつをいただいた。

この後、日本将棋連盟会長をされ、現在、相談役に就任している52期の二上達也白楊ヶ丘同窓会東京支部顧問のご発声で乾杯し、懇親パーティーに移った。

懇談の冒頭、110周年祝賀会で乾杯の発声をされた、出席同窓生のなかで最高齢の35期・佐藤洋氏から後輩へ向けて、健康を維持する秘訣などについてのごあいさつをいただいた。



会場には、プロジェクターが設置され、函館市役所東京事務所から提供された函館の街を紹介したビデオ「函館 出合いの街」と、昨年の函中110年を記念して製作された「白楊魂とともに 函中110年、そして今」が写し出された。昔と変わらない街並みや、時代とともに変わりつつある母校の様子が、思い出と結びつけて会話をはずませる材料を提供するかたちとなった。

また、会場内には、同じく函館市東京事務所寄贈の函館山からの夜景や旧倉庫街から生まれ変わったベイエリアの風景、元町界限などのポスターが多数貼られ、函館の雰囲気を感じさせていたが、年々、これらのポスターがあか抜けたものになっていくことも参加者に好意的に受け止められ、話題を提供してくれていた。

さて、今回の親睦大会のハイライトであるジャズ演奏がはじまった。これまでも、パーティーの合間にバンドの演奏を取入れたことはあったが、今回は「ニューヨークからやってきたジャズメンたち」と銘打ち、函館中部高校出身の現役ジャズ・ミュージシャンによる演奏だ。ピアノ・76期加茂紀子さん、ヴォーカル・99期仲谷美波(音音・ネネ)さんに、加茂さ

んとともにニューヨークで活躍している、ベース・北川秀生氏、ドラムス・植松良高氏。それは、いきなり、『ストリート・ノー・チェイサー』でイサーノ Straight No Chaser』で始まった。スタートから最高潮に達し、たて続けに、ジャズのスタンダードナンバーが演奏され、ステージのまわりは参加者の人垣ができた。

ニューヨーク大学に在籍していた音音さんのボーカルも、昨年の大会では「飛び入り」の壇上からアカペラでその力強い歌唱力を披露したが、今回はトリオメンバーとはこの大会のために即興で組んだ関係であるのに、以前から一緒に演奏してきたかのような印象を与え、さすが、ジャズ・ミュージシャンの本領発揮と、参加者を納得させた。

ジャズ演奏は前半・後半の2ステージ行われ、その合間に、今回参加した若手の紹介が行われた。97期の松川文弥氏、98期の高波恵美さん、及び平成18年卒業の第108期の宮上麻奈美さん。特に、宮上さんは、大学在学中ながら自らがかかわっている「あしなが育英会」のボランティア活動にも触れ、これらの若手メンバーがこれからの同窓会に新しい風を吹き込むも



昭和8年卒(第35期)  
佐藤洋

昭和16年卒(第43期)

井筒吉彦 加藤良雄  
神山茂郎 小泉広義  
續豊

昭和18年卒(第45期)  
池上謹之助 田沼修二

昭和19年卒(第46期)  
小笠原敏雄

昭和20年卒(第47期)  
堀田善和

昭和20年卒(第48期)  
間山郁三 渡辺丞一

昭和23~24年卒  
(第51期)

小野寺吉彦 三國比左男

昭和25年卒(第52期)

井上稔 瀬田松吉昭  
長島康 福津達男  
二上達也

昭和26年卒(第53期)  
佐々木順一 多和田裕

昭和27年卒(第54期)  
遠藤宏 小宮山恵三郎  
澤口幹男 杉田博子

富田洋一

昭和28年卒(第55期)  
阿部健 加藤富蔵  
北原徹 栗崎健一

昭和29年卒(第56期)  
藤本一郎

昭和30年卒(第57期)

小竹嘉子 櫻庭晃  
椎名三五 鈴木幸子  
武田有弘 松川澄子  
吉田精吾

昭和31年卒(第58期)  
五十嵐克至 小川英夫  
越知馨 唐沢フミ子

近藤好介 坪田憲俊  
永野巖 早川光江  
広田洋吉 宮川美智子

昭和32年卒(第59期)  
岸本文子 小林重行  
真船昭

昭和33年卒(第60期)  
石渡悦子 伊藤紀子  
上平慶一 北原耕太郎  
白戸寿男 内藤尚  
松田栄美子 山根信子

昭和34年卒(第61期)  
大久保泰宏 岡本興  
金子公彦 後藤玲子  
佐々木住明 正津禎男  
長尾邦充 堀内恵子  
松本充 水島晴江  
水島紀子

昭和35年卒(第62期)  
荒井浩 池上拓磨  
石原雄一郎 市丸大平  
小松康宏 高橋範彦  
辻明 松本光平

昭和36年卒(第63期)  
小熊勝夫 木島光彦  
小林嘉則 土橋道子  
中村崇 福本元子

昭和37年卒(第64期)  
上田健司 大原淳一  
岡本馨 佐々木京子  
関英夫 田中公子  
徳田定勝

昭和38年卒(第65期)  
小嶋正歳 菅原大作

昭和40年卒(第67期)  
石橋信彦 稲越淳子

# 親睦大会出席者一覧

(青山ダイヤモンドホール)

- 昭和32年卒(第59期) 岸本文子 小林重行 真船昭
- 昭和33年卒(第60期) 石渡悦子 伊藤紀子 上平慶一 北原耕太郎 白戸寿男 内藤尚 松田栄美子 山根信子
- 昭和34年卒(第61期) 大久保泰宏 岡本興 金子公彦 後藤玲子 佐々木住明 正津禎男 長尾邦充 堀内恵子 松本充 水島晴江 水島紀子
- 昭和35年卒(第62期) 荒井浩 池上拓磨 石原雄一郎 市丸大平 小松康宏 高橋範彦 辻明 松本光平
- 昭和36年卒(第63期) 小熊勝夫 木島光彦 小林嘉則 土橋道子 中村崇 福本元子
- 昭和37年卒(第64期) 上田健司 大原淳一 岡本馨 佐々木京子 関英夫 田中公子 徳田定勝
- 昭和38年卒(第65期) 小嶋正歳 菅原大作
- 昭和40年卒(第67期) 石橋信彦 稲越淳子



のとして注目を集めた。

前回の大会に引き続き、今大会も「その年に50歳になった期が企画・運営する」という支部の新しい方針のもと、76期メンバーが中心に進めてきたが、今回の大会を運営する77期の参加者が颯爽と壇上にあがり、この期を代表して若生直氏から「当期は例年少数の参加だったが、今回は二桁の参加。函中に入學と同時に制服が廃止されりべらるな雰囲気で高校時代を過ごした。先輩諸氏の努力の賜物。本大会も同期で知恵を出し合って、より良いものにしていきたい。」と、次回へ向けての決意表明が行われた。

今大会の進行役を努めた76期メンバーが入れ替わって壇上にあがり、63期土橋道子さんの指揮による校歌、火柱のはためく峰も...の斉唱で会場が熱くひとつになり、それぞれの高校時代に思いを馳せた。

最後に、先ほど紹介された若手会員による元気のいい二本メで、次回の再会を約束して懇親パーティーを終了した。

なお、参加者には、北海道製菓(本社・函館)から寄贈されたクッキーとカンパンのセット並びにサッポロビールからのお土産が手渡された。



加賀幸彦 相馬研二  
花海吉夫 松田幹夫  
安田康次

昭和41年卒(第68期)  
大河原綾子 木戸正文  
横田依早弥

昭和42年卒(第69期)  
梅田五郎 梅田やよい  
奥野政博

昭和44年卒(第71期)  
加納元雄

昭和45年卒(第72期)  
会田雅樹 大森もと子  
神垣善一 菊池佳裕

小林繁治 佐野香苗  
谷口雅典 丹羽修  
村上誠一 村田秀樹  
渡部敏雄

昭和46年卒(第73期)  
戸来伸一 山田朗

昭和47年卒(第74期)  
伊藤正明

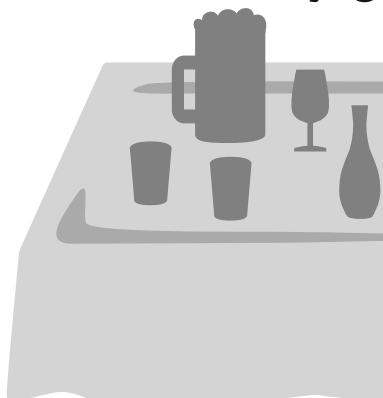
昭和48年卒(第75期)  
桑原洋子 祐川伊左久  
増田博幸 湯座はるみ  
吉川忠幸

昭和49年卒(第76期)  
伊藤靖 稲垣直樹

片野則夫 加藤誠也  
加茂紀子 小林博  
貞方泰子 下國直人  
庄子正子 白川正広

# 第30回・東京支部

(平成18年9月11日)



伴孝子 吉田由香  
若生直

昭和51年卒(第78期)  
岡部あさ子 垣坂清

佐藤芳 島津路郎  
斯波宇司 立野泰昭  
塚本良子 長澤一徳  
松田司 宮崎恒春  
山内清美

昭和52年卒(第79期)  
西田勢津子

昭和53年卒(第80期)  
片瀬裕巳 齊藤聡  
田村幸悦 西谷尚久  
福島洋行

昭和55年卒(第82期)  
清水真 高橋千夏子

昭和56年卒(第83期)  
西篠政幸 田口志保  
馬場麻美

昭和63年卒(第90期)  
石井清香

平成7年卒(第97期)  
松川文弥  
平成8年卒(第98期)  
高波恵美

平成9年卒(第99期)  
仲谷美波

平成18年卒(第108期)  
宮上麻奈美



# JAZZ LIVE REPORT

平成18年10月2日

晴海・第一生命ホールにて



76期 曾我正彦 記

10月2日19時、晴海の第一生命ホールで、白楊ヶ丘同窓会東京支部設立30周年記念「加茂紀子フロムニューヨーク ウィズ函中ジャズメン米木康志アンド音音」のコンサートが400名余りの観客を迎えて開催された。

このセッションは、ピアノ・76期加茂紀子、ベース・73期米木康志、ドラムス・鹿児島ラサール出身の原大力によるピアノトリオに、ヴォーカル・99期仲谷美波（音音・ネネ）、ゲストにサククス・高橋守を加えた構成だった（敬称略）。

オープニングはMonks Dream、次に米木オリジナルのSirius、さらに名曲のThe Peacocksとピアノトリオの演奏が続いた。数時間前に初めて音合わせをしたメンバーとは思えないほどスウィング感じたっぷりで、一気に聴衆を魅了していった。4曲目はManhattan、加茂のヴォーカルに驚きながらニューヨークの雰囲気

に飲み込まれていった。続いて音音が登場し、ピアノのみをバックに、キャロル・キングの名曲You've Got A Friendを加茂と音音のデュエットで熱唱した。70年代のポップスファンにも懐かしい一曲であった。第一部の最後は再びピアノトリオをバックに、音音がI Need To Be In Love / 青春の輝き（カーペンターズ）を情感タップリに歌いきった。

第二部は、高橋のソプラノサククスと加茂のピアノノヴォーカルによる Harlem Blues でスタート、続いて米木、原、音音が加わり、

ミュージシャン全員が揃ったところで、音音のヴォーカルをフィーチャーしてNew York State Of Mind（ビリー・ジョエル）を演奏した。次に、加茂アレンジによるSorran Bushi（ソーラン節）になり、ジャズに馴染みなかった方々にも楽しめる演奏になったようだ。次に、ピアノトリオに戻りAutumn In New York、アルトサククスが加わってBeatrice、最後に全員で加茂オリジナルのSong For Takodate Cityを演奏した。函館の地名が連発するノリノリの楽しい一曲であった。

アンコールは、再びSong For Takodate Cityを演奏した後、ドヴォルザークの交響曲で有名なGoing Home（家路）を加茂のピアノソロで奏で、ふるさと函館に想いを抱きつつ幕を閉じた。

さて、この同窓会メンバーを中心としたジャズライブコンサート開催までの経緯について簡単に紹介しよう。東京支部第30回大会の企画を76期メンバーが仰せつかったのが05年9月、当初は大会のアトラクションで「ピアノ・加茂、ベース・米木、ヴォーカル・音音」の函中メンバーによるジャズ演奏はどうかという漠然としたアイデアだった。それから、加茂をニューヨークから呼ぶのだから別途コンサートもやるうとなり、63期小林嘉則氏のご尽力でトリトンスクエアの第一生命ホールを押し、トントンと話しが進んでいった。9月30日の大会での演奏のノリをそのままコンサートに持ち込めばよいという思惑

だったが、あいにくメンバーのスケジュールが合わず、大会とコンサートでは別メンバーになった。一方、第一生命ホールはクラシックコンサートでは定評があり音響バツグン、でもPA（音響調整）はどうしようかなどと素人スタッフの右往左往を経ながら、なんとかコンサートにこぎつけた。

これもそれも、プロとして活躍されているミュージシャンの皆さんのずば抜けた実力があつたからこそであり、さらに同窓会の関係者各位、当日会場にいらしてくださったすべての皆様のご協力の賜物と感謝しております。ありがとうございました。



演奏者とスタッフ一同

NORIKO  
KAMO

YASUSHI  
YONEKI

nene

76期 加茂紀子

函中の皆さんお元気ですか。

去年の同窓会では本当にありがとうございました。

皆さんの暖かいサポートで実現した素晴らしいホールでの素晴らしいミュージシャン達とのコンサートはもちろんのこと、夢にまで見た同窓生達との再会は、生涯忘れられない思い出のひとつになりました。

さて私の近況です。最近あつたちよつと面白い仕事を紹介します。それはスポーツメーカーのナイキからの出演依頼で、ボストンに行ったときのことです。演奏会場は大きな体育館で真ん中にフェンスで囲まれたバスケットコートがあり、中ではプロの選手たちがゲームをしていて、それを見下ろせる高いステージの上でジャズを演奏するというものでした。また、マンハッタンのミッド

タウンにあるスパで、アロマの香りの中で水着やバスローブ姿の観客に囲まれて演奏したときは、ちよつとドキドキしました。

現在はベテランのドラマー、ジョー・チェンバース氏とのレコーディングを控えており、毎日曲作りに追われています。

今年の親睦大会が成功でありますよう、祈っています。

73期 米木康志

昨年のコンサートでは、76期の幹事の皆さんをはじめ、函中同窓の皆様には、大変お世話になりました、ありがとうございます。

今年は、各年代の高校在学当時の思い出の歌を、何世代かの皆様に歌ってもらおうという企画だそう、これは面白そうですね。私は音痴なので、まあ自分からクビです。

さて近況ですが、現在(7月12日)たまたま釧路に居ます。レッ

ド・ツエッペリンと言うイギリスのハードロックバンドの曲のみを、アコウスティックピアノ、ベース、ドラムの三人で演奏するバンドで北海道ツアーをやっています。バンド名は、「絶句」トリオといっています。興味がある方は是非いらして下さい。

7月7日の伊達紋別を皮切に、函館、手稲、札幌、そして釧路で最終を迎えます。函館では、函中の同級生も何人が来てくれ、楽しい一日でした。

一度、東京へ戻り、何日か演奏をして、今度は22日から25日迄札幌です。中島公園に500人規模のテントをはり、ジャズコンサートをやるという企画です。

それから、函館関係がもう一つ。9月23日に、松風町にある現在営業しておらず、廃墟同然「キャバレー未完成」(マルハン裏)を最低使用可能な状態にして、「たった一日だけのキャバレー」を開こうと言う話がありました。

そこで演奏する話がありますね。私は普段やっているJAZZではなく、少人数のバンドで当時のキャバレーバンド音楽をやる予定。ホ

ステス、ショウダンサー、リンポードダンスの踊り子さん、そしてフルバンドも入る予定です。これも、興味がある方は是非どうぞ！

99期 仲谷美波  
(音音・ネネ)

みなさま こんにちは。昨年10月、白楊ヶ丘同窓会東京支部設立30周年記念コンサートに出演させて頂きましたVOCAL

音音 nene と申します。その折は、実行委員の皆様に変お世話になりました。憧れのミュージシャンの方々と共演させて頂き、終始エキサイティングで、とても貴重な空間だったと思いま

す。今年に入り、サックス、ボーカル、ギターを中心とした、スムーズジャズ・R&Bのライブシリーズ『Groove Smooth』を始めました。ライブ会場を毎回変える事をテーマとしており、7月には東京タワーで『VOIS』を演奏させて頂きました。その内函館でのライブも実現させたいと思っておりますので、その時は是非、皆様足をお運びください。

その他、最近の活動としては東京都内のジャズ、ソウル、ポップスのライブに加えて作詞、作曲、レコーディング等の制作活動、ポータルサポート等もしております。10月には青森・下北でのポールのライブも予定されておりますので、『Groove Smooth』などのライブ情報も含め、ホームページで最新情報をご覧いただけます。これからも白楊魂で音楽活動をしていきたいと思っております！

音音-nene- ホームページ  
www.nenezo370.com  
お問い合わせ  
minmin370@nifty.com

# 随想

## わが故郷

—函館・街・人・思い出—



### 「盤寿」の翠楊会

45期（昭和18年卒）

田沼 修二

広辞苑の「賀寿」の項を見れば「長寿の祝い」とあり、「賀寿」の一覧表も載っていて

「還暦（数え年）六十一歳」以下

「古希（七十歳）」

「喜（七五）寿（七十七歳）」

「傘（半）寿（八十歳）」

「米寿（八十八歳）」

「卒（半）寿（九十歳）」

「白寿（九十九歳）」

「上寿（百歳）」

およそ「存じ」の通りである。

ところで「白楊ヶ丘同窓会東京支部長」を長く勤められた将棋の二上九段のお話では、将棋の世界では将棋盤の目の数が九×九の八十一をお目出たい数とし、八十一歳を「盤寿」として傘寿に次ぐ賀寿として祝う慣わしがあるとのことであった。

我々昭和18年に函館中学校を卒業した45期の同窓会を「翠楊会」と名付け、函館に本部、東京と札幌に支部を置いて、毎年支部の集まりと、秋に函館で総会を開いている。集まる者は年を追って減り続け、昨年9月の函館の総会に出席した者は僅か20名であった。会員のすべてが「盤寿」を迎えた翠楊会の現状である。

昭和13年の新入生は二六五名で、卒業の18年には途中転校者な



どもあつて二二三名であつた。

いま盤寿を迎えた同期生は卒業時の半分の一一七名に減り、大半は病を抱えて連絡無用との返信を貰うことも増えてきた。思えば62名が集まった昭和50年の札幌大会、75名が参加した昭和57年の鶴巻温泉の集りが懐かしい。そして平成5年、函館で開いた卒業50周年の盛大な記念総会を思い返せば、中学校で習った「歳々年々人不同」の古詩を自らの体験としてつある。

しかし少数ながら、病める人々の診察を続ける医師をはじめ、ピアノの独奏会に挑み、スキーを担いで冬山に挑戦したり、第九のコーラスリーダーを楽しむ盤寿の友は、なお健在である。幸い健康に恵まれた残る翠楊会員は、命尽

きるまで、この懐旧の集まりを続けたいものと願っている。

### リリリリが時空を 超えるスズラン（鈴蘭）

59期（昭和32年卒）

小澤 善雄

庭の鈴蘭が咲いてくれた。しかも三本である。葉の脇から細い茎を伸ばし、白い壺型で白磁を思わせる花を十個ほどつけている。緑の楕円形の葉に抱かれるように咲く姿は、何とも可憐。それでいて繊細な自意識もある。

去年成績が良かったので、お礼に肥料を少し施したためか、今年は葉がおにおにしく茂っていた。「スズランはやせた所の方が良く





育つよ」と母が話していたことが頭をかすめたが、後の祭り。これはへぼなことをしたなと思いがら、花を待つていただけに嬉しい。匂いを確かめたくて身を屈めたが、なかなか分らない。地べたへ膝をついたら、紛れもなく香しい。

昔、スズランが咲き出すと、デパートや園芸店などに地方発送のコーナーが設けられ、季節の商品として販売されていた。初めてのころは、花束だったようだが、後には鉢植えが贈られるようになった。函館駅のホームでは旅行客へのサービスとして、花束のプレゼントがあり喜ばれていた。

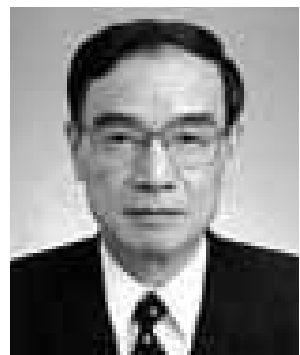
しながら、スズランは「上品で優雅であるがどことなく箱入り娘のごとき弱さがある」と説いている。私もスズランには心惹かれる。鈴や蘭という名称から受けるイメージ、スズランと声にしたときの響き、甘く爽やかな芳香、すべてである。それにしても、密生している場所で、足下からにいたつ中に佇んだら、陶醉してしまうのではないかと考えると、その当時は羨ましく思う。残念ながら、北海道の初夏の風物詩も、最近採りすぎてしまったためだろうか、生活から遠ざかってしまった感がする。

風が吹くたびに細かに揺れる花を見ていたら、ふと高校時代に汽車通学をしていた場面が頭をかすめた。朝夕の通学時はいつも満員でぎゅうぎゅう詰め。帰宅して夕食を終えると睡魔が襲つ。それだけに、列車の待ち合わせ時や、行き帰りの車中で、仲間同士で授業の情報交換をしたり、相互に問いを出し合ったりしながら時間を有効に活用した。特に、英語の単語の暗記が求められていただけに、時間があれば意味やスペルについてお互いに提示しあった。「レストラン」のスペルは？、「Adam's apple」はどんなリンゴ？（のどぼとけの意味）等々。

あるときK君が「a lily of the valleyの意味何だか分かる？」と問うのである。しばし沈黙が続くと、「谷間のユリでスズランのことさ」と言つと、鼻をぴくりとさせた。

一陣の涼風が吹いた。かわいら

しいかすかな花の振れは、まさにリリリリ。谷間のリリーが、時空を越えて現在と過去を取り結んでくれた。



【小澤喜雄】

七飯町在住。3冊目のエッセイ集「北の草木花 つれづれ帳 優しい心が花を咲かせる」から抜粋した。  
Tel 0138-65-4882

### 皆でよく勉強した函中

68期（昭和41年卒）

山本 晴義

専売公社に勤めていた転勤族の父親について小田原から函館に引越してきたのは、中学二年生の時でした。

的場中学に転入し、函館中部高校を卒業するまでの思春期の五年間を函館で過ごしました。

当時の引越は大変で、小田原から上野経由で、蒸気機関車の寝台列車と青函連絡船を乗り継いで、一昼夜かけての大移動でした。トンネルのすすで顔が真っ黒になったこと、青森での青函連絡船のドラの音、函館に降り立ったときの雪景色など、五十年たった今でもその時の状況が思い出されます。

住まいは時任町で、三階建ての的場中学は広々としており、北海道の学校はさすがに大きいというのが初めの印象でした。

担任の松村先生からは今年賀状を頂いております。親友で、テレビ朝日のコメンテーターをしている朝日新聞論説委員の清水建宇君は、よそ者だった私を立派な道産子にしてくれました。

函館中部高校での思い出は、担任の先生たちとの出会いです。一年は地学の古谷先生、二年は英語の上野先生、三年は国語の横田先生。共通していたのは、先生方が皆、教育熱心であったことです。自分の現在があるのも中部高校で出会った先生方のおかげだと思っています。中部高校では、友人たちとも数多くの思い出ができました。文化祭の仮装行列でクレオパトラを演じたのも忘れられませんが、男女共学の5人クラスで、進学、就職組が半々でしたが、放課後に皆でよく勉強しあっていました。級長である自分が、数学の補講で教師役をしたことも記憶にあります。

大学は、函館を離れ、仙台の東北大学の医学部に入学しました。卒業後は、心療内科医になり、現在は横浜労災病院（横浜市）で、勤労者メンタルヘルスセンター長として働いています。心療内科とは、心と身体の両面を診る内科のことです。

ストレスが原因で病気になるってしまった患者さんを診療したり、ストレス病にかからないための予防の普及に努めています。

函館出身の患者さんも五人担当しています。ちょっとしたアクセントで、「先生は函館の出身じゃないですか？」といわれることもあり、ちょっとうれしい気持ちです。患者さんは、大人ばかりでなく受験ストレスを抱えた高校生もたくさんおり、のびのびと過ごした自分の青春時代を思い出し、函館で思春期を迎えられたことを感謝しています。

最後に、私が実践しているストレス解消法をお教えします（図参照）

- S...スポーツ(記録より、楽しみ)
- T...トラベル(自然との触れ合い)
- R...レクリエーション(人とのコミュニケーション)
- E...イーティング(栄養素やカロリーではない)
- S...スィング(歌うこと)&スピーキング
- S...スリーピング、スマイル&酒&SPA

### Dr 山本の 実践している ストレス解消法

「ストレス—日決算主義」  
(NHK出版)より

照し。皆さんも参考にしてみてください。  
ださい。



【やまもと・はるよし】

横浜労災病院 勤労者メンタルヘルスセンター長。一九四八年東京都生まれ。函館市立の場中、函館中部高を経て72年東北大学医学部卒。同大助手などを経て、二〇〇一年より現職。医学博士、日本医師会認定産業医、日本体育協会公認スポーツドクター。横浜労災病院ホームページの「勤労者心の健康相談」に、世界中の日本人ビジネスマンから電子メールで寄せられる毎月五〇〇件近くの心の悩みに答えている。

著書に「ストレス一日決算主義」(NHK出版)、「ビジネスマンの心の病気がわかる本」(講談社)など。  
北海道新聞道南版「みなみ風」平成十九年六月十四日より転載

### 母校って

98期(平成8年卒)  
高波 恵美

98期の高波恵美です。  
18歳に北海道を出てそのまま10年大阪に居て、その後東京へきて2年、今年ついに三十路になりました。

昨年東京支部の大会に顔を出したことがきっかけで評議員をするようになったのですが、非常に面白い! というのは会議の後の宴ですが(笑)初対面の方がほとんどにも関わらず、自分の夢を語り語られ、こんな風に素敵に年を重ねられたらと、何度も思いました。  
正直にいうと、今年5年ぶりに実家に帰ったくらい普段愛郷心を意識したことがなく、東京を満喫しておりました。  
母校が一緒だったということだけで、色々な分野でご活躍されている色々な世代の方と、これほどまでに心に壁を感じないでお話する面白さは、一言では語りつくせません。  
また、今私がやっている事業も偶然出会った母校の先輩がきっかけだったり、今年自分が主催した講座に母校の後輩が居たり、人生の中で人様が運んでくる縁を毎日感じています。  
同窓会のきっかけを先輩に質問すると、年齢が遅いスタートが多いようですが、同年代にこだわらず世代を超えたコミュニケーションのきっかけを、自ら創っていただけだと思います。



# 青春とは

原作詩/サムエル・ウルマン  
自由訳/新井満

さあ 眼をとじて

想いがかべてみよう

あなたの心のなかにある

無線基地

青空高くそびえ立つ たくさんの

光輝くアンテナ

アンテナは 受信するだろう

偉大な人々からのメッセージ

崇高な大自然からのメッセージ

世界がどんなに美しく

驚きにもちているか

生きることが

どんなに素晴らしいか

勇気と希望 ほほえみを忘れず

いのちのメッセージを

受信しつづけるかぎり

あなたはいつまでも 青年

あなたの心のアンテナが

今日も青空高くそびえ立ち

いのちのメッセージを

受信しつづけるかぎり

たとえ八十歳であったとしても

あなたはつねに 青春

青春とは 真の 青春とは

若き 肉体のなかに あるのではなく

若き 精神のなかにこそ ある

## 白楊魂

青春とは 真の 青春とは  
若き 肉体のなかに あるのではなく  
若き 精神のなかにこそ ある  
薔薇色の頬 真赤な唇 しなやかな身体  
そういうものは たいした問題ではない  
問題にすべきは つよい意思  
ゆたかな想像力 もえあがる情熱  
そういうものが あるか ないか  
こんこんと湧きでる 泉のように  
あなたの精神は  
今日も新鮮だろうか  
いきいきしているだろうか

臆病な二十歳がいる 既にして 老人  
勇気ある六十歳がいる  
青春まったただなか  
歳を重ねただけで 人は老いない  
夢を失ったとき はじめて老いる  
歳月は 皮膚にしわを刻むが  
情熱を失ったとき 精神は  
しわだらけになる



# 同期会だより

## 第42期 高楊会

安富隼平記

人生百年ですが、高楊会の会員は万一の時本部の世話人村上健介君に連絡、過去帳に記録することになっていきます。総員228人、戦死25人、逝去117人、不明28人、現在員58人。

絵に巧みな荒木勇君は、第54回市展に油絵「Closed」を出品、傍ら「私本シベリア抑留」第二部を執筆中です。会員一同出版を楽しみにしていますが、本人は百才まであと16年などと落着いています。

多才な田沼静一君は、余技の一つ水彩画を画いています。今年の年賀状イボイノシシは目の下にキ



バの根と大きなイボがあるのですが、かわいらしい目をしています。

最近の作品「青函連絡船（大正末期）」は熊谷孝太郎写真集「はこだて 記憶の街」収録2枚の写真から。まるまげの女性の目の美しいこと。余技とはいえ既に大家の風格があります。

## 第45期 翠楊会

田沼修二記

例年通り、今年も6月6日昼、NHK青山荘で翠楊会東京支部の総会を開いた。今年は様々な理由で、当初12名の出席予定者が急に



減り、参会者8名の淋しい集まりとなった。

会は出席会員の近況報告のあと欠席会員からの返信を紹介したが老化は確実に進んで、入院者がめつきり増えてきた。函館本部や札幌支部の消息の報告のあと、中学時代の回顧談に始まり、傘寿を越えるまでに辿ったそれぞれの人生航路の思い出などを語りあった。アルコールの消費量はめつきり減ったが話題は尽きず、次回を約束し、記念撮影をして散会した。

## 第54期 五楊会

杉田博子記

五楊会と名づけた54期関東地区同期会が、6月8日東京飯田橋のホテルグランドパレスで25名の出席で行われた。

出席者は大阪や京都、函館からで、卒業以来初めての人もおり、和気あいあいの楽しいひとときであった。

各自近況を話している所を見ると皆70才を過ぎたとは思えない程元気である。

初めて共学になった高校2年の時、早く仲良くなれるようにという諸先生の配慮のお陰で、皆ほんとうに仲良しである。

昨年12月の忘年会を皮切りに

「隔月の食事会」をやるという事になった。2月、4月、6月は同期会があったので休止、8月は会場の都合で実現出来ず、今のところ9月11日（火曜日）を予定している。

## 第57期

吉田精吾記

54期の皆さん、私からの案内を楽しみに待っていて下さいね。

佐々木弘明君が栄えある叙勲受章わが57期では30年前から原則として毎年同期会を開催しているが十数年前からは毎月1回、囲碁会を続けてきている。さらに、数年前に十里木高原に女性も加わって一泊旅行をしたのを機に年に数回、麻雀を楽しむ会も開くようになった。

囲碁の参加者は5、6名、午後1時ごろから3、4局打った後、近くのレストランでビールやワインを傾けながら、その日の囲碁の感想や近況報告、健康談義など幅広いテーマが話題になる。

一方、麻雀はといえば、多くは葉山の吉田宅で10時ごろ集まり昼食を挟んで夕刻まで2卓で賑やかに卓を囲む。

夕食は小生の手料理をみんなで楽しむ。その時によりイタリア料理であったり和食であったりするが、みんなの評判は上々、アルコールの勢いもあっていつも時間の経つのを忘れて笑いが絶えない。

旅行もする。この3月には14名が参加して三浦海岸にあるマホロバ・マインス三浦に一泊して麻雀



大会を開催した。

それはさておき、この5月に佐々木弘明君が永年、自治省の消防研究所所長として活躍された功績により瑞宝中綬章を受章した。そのお祝いの会を、すでに予定していた島田さんの誕生祝の麻雀大会にあわせて6月に葉山の吉田宅で開催した。好天にも恵まれ、せっかくの機会だからと京都や静岡の遠方からも馳せ参じた人も、麻雀をしない人も加わって総勢17名の盛況となった。麻雀2卓、囲碁も2組、そしておしゃべり組と満員電車並みのぎゅうぎゅう詰めであったが、それでもあちこちで笑いが絶えなかった。

昼食時にお祝いとして金一封のほか山形・酒井ワイナリーのメルロー種ワインの会員証と、同種のワインを贈呈した。4年後には



熟成したワインが届けられることになつてゐる。ワイン好きの彼に相応しいのではないかと選んだものだ。席上、来年にはその原木を確かめながら温泉旅行する案も浮上した。

ビュッフェスタイルの夕食も賑やかなことこの上なかつた。料理もなかなか好評で、大皿料理もあつという間に平らげ、みんなが持参したワインや日本酒、ビールも次々に空になつてしまつた。これもすでに古希を超えた連中とはとても思えないほどの元気ハツラツぶりには驚くばかりだつた。

右脳と左脳を使って頭を鍛え、料理とアルコールでお腹を鍛え、好き勝手なことを言いながら思いつきり笑つて、と、すこぶる健康的？なひと時を満喫した。これも同期という気の置けない集まりのお陰といえる。

この調子で百歳にチャレンジしよう!!がこれからの目標だ。最後は恒例の麻雀の成績順に並んで記念撮影。この日は佐々木君が運も味方に見事優勝し、ダブル受賞となつた。できればこうつした楽しい輪をもつと広げていきたいものだ。

第62期 三五会(夏の旅)

池上 拓磨記

6月23日〜24日の2日間、恒例の三五会夏旅行(今回は男鹿温泉)に総勢22名の方が参加した。例年、梅雨入り直後に旅行を実施しているが、同期生には自称、晴男さん、晴子さんが多いせいか、今年も又



幸運にもお天気に恵まれ、2日間とも晴だつた。初日はバスで男鹿半島の史跡等を訪ねながら、目的地の男鹿温泉に向つた。途中、日本海の海岸沿いに延々と続く防砂林を見ながら、観光バスで寒風山に登り、夜は勇壮な男鹿太鼓の実演を楽しんだ。翌日は、元少女達のモーニングコールで目をさまし、幸運にも日の出を拝むことができた。男鹿真山伝承館ではナマハゲ習俗学習講座を見学した。家の主とナマハゲの問答事例や、ナマハゲが家の敷居をまたぐ時の足踏み(7回)、主の座敷に入る時の足踏み(5回)、家を立ち去る時の足踏み(3回)等々のルールを事前に説明され、ナマハゲのご登場となる。ナマハゲ役も客層を見ながらコミカルに演じ、私達を楽しませてくれた。テレビニュースで見るシーンとは違い、

特定の家をナマハゲが訪ねてくるという設定での実演は、楽しい思い出となる催しだつた。今回も函館の幹事さんには、お世話になり、本当に有難うございました。

第67期 志丸会

佐藤 泰博記

平成18年11月17日から3日間、還暦志丸会を東京にて開催した。参加者は、札幌8名、函館16名、東京33名の合計57名(男39女18)。初日は浅草助六の宿「貞千代」での宴会に始まり、2日目は「はとバス」と「水上バス」のコースに分かれたが、夜は合流し、駒形の「どぜう鍋」をメインとした晚餐会、3日目は新宿御苑の観菊会と存分に親交を深める事が出来た。初日は先ず、還暦に因んだ艶



やかな赤色モードの中、函館から機材を持ち込んだ吉岡プロによる記念撮影から始まつた。そして、加賀幹事長の司会のもと開会し、山崎会長挨拶、太鼓持ちの芸と続き、懐かしい話などでアツとという間に一次会は終わり、二次会は事前に用意した高校時代の写真を編集しての「青春のアルバム」、スライドショー上映会」となり、みな若かりし頃にタイムスリップ、今でも変わらない(変わった人もいるが!)仲間達との談笑また談笑...で終了。

2日目、私は「水上バス」コースを選び、お台場に到着後即、皆と別行動し「大江戸温泉物語」に直行。サウナ、温泉でリラククスして更衣室に戻ると携帯に留守電が...電話すると「皆の金持つて何している!早く戻れ」と幹事長の怒声。ひいた汗もドット噴出して皆のもとへと駆けつけた次第。

3日目は、観菊会のため新宿御苑に行つた13名が前夜の宴会の残りの飲食物を持ち込み、「菊見の宴」と洒落こんだものの、小雨に見舞われ東屋へと移動。森戸校長は飲物のキャップを器にして、職業柄、今まで出来なかつた友達を作る為と、一人づつお茶をついで回り、たちまち12名の友を作る事に成功。早速「次の会は帯広も一日予定に入れて」との提案に全員一致で快諾を得た。アアいがつたね、いがつた!

すでに定年を迎えた人、まだまだ働く人...など、様々なセカンドライフがあると思うが、これからも第3回中国旅行の他、数年に一

度くらいは元気な顔を見せ合つていきたいもだと感じた再会であつた。「再見!」

第68期 よいよい会

木戸 正文記



「還暦」と言つ言葉がいよいよ現実のものとなつた。

これを機に、まず首都圏在住組が札幌・函館を訪れ懇親会をやるう、との話が本格化し、6月の第2週「YOSAKOIソーラン祭り」の行われている札幌と、函館地区は大沼で開催の運びとなつた。

平成19年6月9日、午前8時羽田集合。午前9時札幌へ飛び立つ。この日、札幌は快晴、真夏を思わせるほどの上天気でカラリとした空気が清々しい。荒川君の手配



二次会は森川勝吉君の「ピカモリ川」(ニューすすきのビル4階

してくれた、大通りパレード会場の桟敷席に陣取り、祭り真つ盛りの「YOSAKOIソーラン祭り」を観覧。道内外からエントリーした、各隊の一糸乱れぬ、切れのあつたる灼熱の演舞と飛び散る汗と笑顔が大音響とともに次から次へとやって来る。  
特に素晴しかったのは養護学校チームである。祭りと対峙し、おのこの祭り観を良く表現している、まさに「一生懸命」その演舞は心に伝わってくるものがある。ブラボーである。機会があれば一度ご覧頂ければと思う。  
さて、懇親会は札幌テレビ塔2階宴会ホールで午後7時から樋口、富田、藤原先生にご出席頂き、開催した。40数年の歳月は瞬く間にタイムスリップ。一番遠方からの出席は豊田市からの内藤和明君であった。



Onissosin)にて、樋口先生はじめほぼ全員が徒歩で移動、東京出張の今井浩三君も駆けつけ、再会を期して、再び乾杯乾杯乾杯。杯。翌日(9月10日)は大沼公園へ列車で移動。札幌駅デパ地下で偶然フェアーをやっていた、荒川君の地麦パン工房「れもんベーカリー」(Onissosin)で昼食のサンドイッチを調達。  
大沼は昨日の喧騒とは打って変わったの静寂の中にあつた、湖に映える名峰駒ヶ岳、今まさに萌え出でる新緑の大沼公園が素晴らしく美しい。  
ホテルの露天風呂につかり、野鳥の声と悠然と泳ぐ錦鯉を見ながら、ゆったりとした時間の流れを楽しむ。

ら、ゆったりとした時間の流れを楽しむ。  
函館の皆さんとの懇親会は函館大沼プリンスホテルで午後5時半から開催。再会を祝し乾杯の音頭は山本晴義君。彼は九州での講演の後、駆けつけてくれた。宴会開始、卒業アルバムで再確認しつつ「なんも変わってないネ」と几帳面な・さん。二次会はカラオケへと続くが、瞬間に午後10時、帰宅組は再会を誓い合いながら、送迎バスへ。青森在住の本谷隆司君は真夜中のフェリーに乗るとのこと。  
翌日は再び駒ヶ岳の景観を楽しみつつ、朝食の後、現地解散とした。ゴルフ、函館観光を楽しむ者、そして実家や親戚へ顔をだす者、三々五々再会を約束して出発して行った。  
今回の懇親会開催にあたって幹事として、尽力いただいた、荒川伸夫、徳田祐二両君とスタッフの皆さん、そして出席し会を盛上げてくれた、各先生と延べ80名の皆さんに感謝しつつ、函館空港から帰途に着いた。  
首都圏からの参加は麻田(村本)、雨宮(工藤)、大河原(小澤)、細野、塩田(村井)、村上(佐藤)、吉野(米一)、池端、越中谷、及能、白崎、高橋(弘)、武内、内藤、丸山、山本、横田、木戸。

第71期

加納元雄記

今年の71期大会は、斎藤太七郎君の紹介により、九段下の「ホ



テルグランドパレス」芙蓉の間で、6月16日に開催した。  
今回は、函館からザッケンこと佐藤健一君が出席。彼は、五稜郭公園前で「居酒屋けんちゃん」を開業しており、(函館から見た)地方在住者が帰郷したときの拠り所となっている。また、函館で歯科医を開業している村井茂君が途中から飛び入り参加。偶々所用で上京していて、忙しいスケジュールの合間を縫って駆け付けてくれたようである。  
今年の話題の中心は「健康」。検査で異常が見付かった、と言った話題から始まって、3年前からこん睡状態が続いている同期生の近況、出欠の返信八ガキが奥様からの逝去の連絡であつた友人のこと等々...。  
最後に、今日、6月16日は元氣



であつた証しに、この集合写真を撮影して、一次会をお開きにした。  
二次会は、同じホテルのスカイラウンジで行い、その後は銀座まで繰り出してカラオケ。更に夜の巷を彷徨つた末、ザッケンが泊っているグランドパレスに舞い戻つて、空が白むまで尽きぬ話に花を咲かせた者も、いたようである。  
第72期  
渡部敏雄記  
2月24日(土)に開催された東京同期会には、遠路函館から福西秀和くん(3組)が駆けつけ、総勢42名という前回(平成17年1月開催)とタイ記録になる最高人数が集まりました。  
今回の極立つた特色は、特に理系クラスからの初参加者が多かつたこと。従来は9組だけが突出し



ていたのが、今回は6〜10組からまんべんなく出席があり、理系が文系をしのぐ勢いになっていま

す。その反面、女性の参加者が減少したため、ハナとタツタのタツタ二人だけの賑やかパワーでは如何ともしがたく、華やかさより男臭さがまさった会となりました。

同期会の男性化は、日本の少子化に匹敵する危険な徴候です。次回、女性の皆さんの奮起を切に希望いたします。とはいえ、村田秀樹くん(9組)が執念で調達した料理は従来とは比べものにならないほどグレードが高く、そここで繰り上げられる卒業以来の再会シーンを大いに盛り上げて、なごやか且つ温かい談笑の輪がいつまでも続く会になりました。

皆さんありがとうございます。来年か再来年になるか分かりませんが、またお会いしましょう。会計担当の小林繁治くん(2組)から、極めて迅速な会計報告が届きましたので別途報告いたしません。赤字と聞いておりましたが、会計幹事の腕が良いのか終わってみれば1万2千円ほどの黒字になっていました(奥山御夫妻ごめんなさい。黒字になったら御夫婦割引と申しあげたのに、返金できずに終わって済みません。次回、覚えていたら値引きします)。

もうひとつごめんなさい。当日、クラス別の写真しか撮っておらず、一次会の会場で全員の集合写真を撮るのを忘れしました。気づいたのは二次会が終わりがけ頃という失態、最近モノ忘れが激しいのです。

函中の卒業生であることまで忘れないようにしなければ。

第75期 七五三会

宮下知子記

50の声を聞くとなぜか急に同窓会活動が活発になるという話は前から聞いていたが、はたして私たち75期もその通りの展開になった。

ほぼ全員が50歳になった05年2月、七五三会結成(七・五・三ではなく、な・ご・み会と読む)。今年には銀座にある品のよい居酒屋「咲くら」で会合が開かれた。幹事は持ち回り制で今年は2組と6組の有志が担当した。

それにしても不思議だ。高校卒業当時、人生の中身のほぼすべては「未来」に属していた。大学生活、恋愛、就職、結婚、子育て...。そのすべてを体験しつくしたあと(ちよつと50歳頃?)、何事もなかったかのように昔に戻って君、(旧姓)さんと互いを呼び合い、談笑する私たちっていったい...

ひとが同窓会に出かけていくのは、自分の中の「変わらない部分」を確認するためのだろうか。それとも、大いに「変わった自分」を自他ともに確認し今後の糧にするためののだろうか。おそらくその両方を無意識のうちにやっているのかもしれない。単になつかしい、昔話をしたいからという後ろ向きな理由だけではないような気がしている。

第76期 あす76会

白川正広記

先輩の皆様もどこかで言っておられたとおり、50歳の前後から同期・同窓の集りに皆さんの関心が高まってくるものようです。

わが76期も高校卒業30周年の48歳のころから、函館 札幌及び東京であいついで同期会が活発にもたれるようになってきました。新年会、忘年会、暑気払いなどの連絡にはインターネットを通じた同期の「掲示板」がたいへん威力を発揮しています。

その「副産物」として、東京付近在住メンバーで、数組のゴルフコンペが定着してきております。名づけて「あす76会」。05年から、1月、4月、7月、10月を定例会として、10回を数えました。今回は、その節目として、7月の「海の日」をはさむ3連休を利用



用し、海を渡り、大沼の地で、北海道ゴルフツアーとの「決戦」に挑むということになりました。参加者は写真のとおり、4組です。勝敗はさておき、遠く離れて、ネットでしたか会話してこなかったメンバーとの「肉弾戦」に大いに盛り上がりました。

東京からのメンバーの半数は、3日連続「54ホールの旅」ということで、函館メンバーからは「緑のお遍路 函館大沼54ヶ所巡り」と尊称されるに至り、中日の15日夜に、五稜郭付近の居酒屋に集合し、函館 札幌、東京、ゴルフをやる人もやらない人も含めて、総勢27名の宴会とあい成りました。

いつもの「地区別」の同期会と勝手が違い、30数年ぶりで顔をあわせる面々も幾組が存在し、お互いに自己紹介する場面も見られました。会は、たいへん盛り上がり、ゴルフ談義を通り越し、二次会、三次会へともつれこんだのはいうまでもありません。

物故者

謹んでご冥福をお祈りいたします。

- 高橋 勝美(29期・昭2年卒) 平成9年10月11日没
- 徳山清一郎(31期・昭4年卒) 不明
- 天坂 正男(32期・昭5年卒) 平成17年11月3日没
- 徳田 肇(34期・昭7年卒) 平成18年8月11日没
- 佐々木忠男(39期・昭12年卒) 平成18年8月11日没
- 重松 史郎(39期・昭12年卒) 平成18年2月4日没
- 前田 季邦(40期・昭13年卒) 不明
- 関 四郎(42期・昭15年卒) 平成18年7月28日没
- 奥野 潔(43期・昭16年卒) 不明
- 山崎 秀勇(43期・昭16年卒) 不明
- 吉田 徹(46期・昭19年卒) 不明
- 徳永 俊夫(51期・昭23・24年卒) 平成18年12月23日没
- 上垣 美以(64期・昭37年卒) 平成18年7月没
- 高尾 忠良(42期・昭15年卒) 平成18年12月31日没
- 飯田 繁(42期・昭15年卒) 平成19年4月16日没
- 大沢 清躬(42期・昭15年卒) 平成19年3月24日没
- 工藤 亮二(51期・昭23・24年卒) 平成18年2月4日没

## 平成19年度 評議員会報告

719名)、運営費の節減等により、差引収支残(211,132円)真船監事より監査報告(3)平成19年度事業計画案加納副支部長親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等

日時・4月18日(水)  
場所・インテリジェントロビー  
ルコ 出席評議員36名  
以下の議案について審議し、全議案とも承認された。

(1)平成18年度事業報告  
加納副支部長  
親睦大会、特別企画、会報、HP、渉外活動、同好会活動等  
(2)平成18年度収支決算報告  
片瀬理事  
会員の皆様からのご寄付(32名、102,000円)、年会費納入者の増加(712名

(4)平成19年度収支予算案  
加納副支部長  
昨年度と同様に収支均衡予算とする  
(5)支部長の選任  
金子支部長  
次期支部長は、顧問・先輩による仮称顧問会に諮って選任する。  
引き続き、同会場において会費制で懇親会を実施。今年度親睦大会幹事の77期若生直氏からのイベント企画説明及び協力要請等があった。  
なお、4月25日に顧問会を開催、次期支部長として安田康次氏(67期、S40年卒)に委嘱することを決定。

平成18年度収支実績および 平成19年度予算			
	18年度実績	19年度予算	
収入の部	年会費収入	2,157,000	2,160,000
	大会費収入	1,512,000	1,520,000
	会員からのご寄付	102,000	80,000
	その他	115,608	120,000
	合計	3,886,608	3,880,000
支出の部	大会関連費用	1,428,071	1,640,000
	会報関連費用	861,041	863,000
	印刷費	206,850	200,000
	通信運搬費	191,412	190,000
	本部派遣費	179,480	210,000
	事務所諸費	300,000	300,000
	その他	508,433	477,000
	合計	3,675,287	3,880,000
差引収支算	211,321	0	
次期繰越剰余金	4,798,071	4,798,071	

## ご寄付御礼

昨年度は32名の方からご寄付を頂戴いたしました。深く感謝申し上げます。お名前を掲載して御礼に代えさせていただきます。(カッコ内は期・卒年)

田熊国太郎様(33・S6)  
徳田肇様(34・S7)  
加藤敏雄様 佐藤洋様(以上35・S8)  
風間憲吉様 釣谷光博様(以上37・S10)  
大庭一朗様 西原林之助様(以上38・S11)  
高梨良雄様 椿田和彦様(以上39・S12)  
今井清様 太刀川良三様  
田本實様 外山源一郎様  
西村慎吾様 室谷国男様(以上40・S13)  
井筒吉彦様 宇津志彰様  
梅崎総一様 加藤良雄様  
神山茂郎様 佐々木貞光様  
谷淳一様 續豊様(以上43・S16)  
今井基之様 勝浦寛様  
久保田陽人様 橋本隼朗様  
三上理一朗様 渡辺鉦一様(以上44・S17)  
田沼修二様(45・S18)  
金子公彦様(61・S34)

当支部の財政状態はまだひ弱で、本年も引き続き会員の皆様のご寄付を募っております。お志のある方は、ご協力をお願い申し上げます。

【取扱金融機関】郵便局  
【口座番号】00190 1 124291  
【名称】白楊ヶ丘同窓会東京支部  
【振込用紙】郵便局備え付けの用紙(赤色・振込料受取人負担)をご利用してお振り込みいただけます。

## ポプラ会 報告

65期 菅原大作記

第28回ポプラ会は平成19年5月11日(金)、浦和G.Cにて開催された。

当日は、台風並みの強風下、19名の参加者があり、和気あいあいの中、ダブルペリア方式でプレーが行われ、無事終了した。成績は次のとおり。

優位	2位	3位	優勝
63期 佐藤 建氏	63期 小林 嘉則氏	65期 菅原 大作氏	63期 佐藤 建氏
63期 菅原 大作氏	65期 菅原 大作氏	65期 菅原 大作氏	65期 菅原 大作氏
65期 菅原 大作氏	65期 菅原 大作氏	65期 菅原 大作氏	65期 菅原 大作氏



# 第31回親睦大会案内

# 青春の詩、そして故郷函館

2007年11月10日(土)午後2時～

今年度の親睦大会の運営は、私たち77期が担当いたします。アトラクションは、これまでと装いを新たに、親睦大会参加者の皆様一人一人にアトラクションに参加して頂く企画としました。「母校函中」と「故郷函館」への思いを共有し、同窓生としての絆を強め、心を通わす時間としたいと考えています。

形式は、同窓生の皆様に年代ごとにグループをつくって頂き、その年代の方々の青春時代に関連した曲をプロのピアノ伴奏で歌って頂くというものです。同窓生の間を、時代ごとに歌声でリレーし、同じ街で過ごした思い出、私たちが生きた歴史を共有する空間を、皆様と一緒に作りたいと思いません。

77期からは、音楽部OBが多数？ 参加する予定です。歌はどのもなあとこの方にも気軽に参加して頂けるよう、歌唱支援隊を結成いたしました。天使の歌声にはちよつとも足りないかもしれませんが、当日までリハーサルを重ね、一所懸命サポートしたいと考えております。会場全体で大合唱になるような楽しい雰囲気を作りたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願い致します。

また、懐かしい函館の写真を函館の郷土資料室から取り寄せ、時代ごとに編集致しました。曲と共に放映致しますので、歌と合わせでお楽しみ下さい。遠く函館を離れても数百名の同窓生が一堂に会する東京支部大会

は、函館中部高校の歴史と伝統の重みを、改めて私達に感じさせてくれます。

77期は、今年度の支部大会幹事期となり、昨年来、延べ30名以上の同期生が準備会に参加するようになりました。

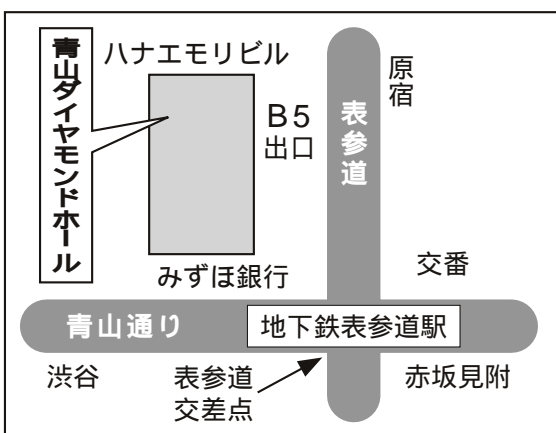
いつも昔話に花が咲き、(準備の方がおそろそかになっていきます)高校卒業後30年以上も経っているのに、幼なじみの時のまま話が弾み、高校時代に話したことができない人とも友達になることができました。

このような機会を与えて下さったことに、今、私たちは大変感謝しております。

今回のアトラクションは、同窓生が自ら楽しみ、協力して創り上げる企画です。どうか、皆様奮って親睦大会にご参加下さいますようお願い申し上げます。

77期評議員 若生 直

## 青山ダイヤモンドホールご案内



### 青山ダイヤモンドホール

〒107-0061 東京都港区北青山3-6-8  
電話：03-5467-2111

#### 地下鉄

銀座線・半蔵門線・千代田線  
表参道駅B5出口直結

#### JR山手線

原宿駅下車・徒歩10分

駐車場(有料)には限りがございますので、なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

## 歌唱曲目(予定)

- ① りんごの歌
- ② 青い山脈
- ③ 雪山賛歌
- ④ 上を向いて歩こう
- ⑤ 高校三年生
- ⑥ いつでも夢を
- ⑦ 虹と雪のバラード
- ⑧ 戦争を知らない子どもたち
- ⑨ いい日旅立ち
- ⑩ 北国の春
- ⑪ 世界に一つだけの花
- ⑫ 函館の女

## 編集後記

昨年は白楊ヶ丘同窓会東京支部設立30周年を記念して、晴海トリートンスクエア第一生命ホールにおいてジャズライブコンサートを開催しました。紙面で内容はご報告申し上げましたが、同窓、同郷の皆様を始めたくさんの方々にご来場いただき、成功裡に終えることができました。ひとえに皆様のご協力、ご支援の賜物と心より感謝いたします。

さて毎年親睦大会は幹事期のどなたかによる講演や演奏をアトラクションとして行ってきました。今年度は、「アトラクションの主役はご出席の皆様」との第77期(昭和50年卒)のコンセプトによる企画です。今までは視点を変えた企画となっており、どんな大会になるか楽しみです。ぜひご出席をいただきたく、なお、今回の会報から編集スタッフを一新いたしました。新たな観点を編集してまいります。

長年にわたり会報を担当され、ハイレベルな紙面を作ってくださいました、63期小林嘉則氏のご尽力に感謝の意を表したいと思います。諸所不行き届きの面があるかと思いますが引き続きご愛読いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

編集子

## 東京白楊だより30号

発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部  
発行人 安田 康次(67期)  
編集 木戸 正文(68期)  
発行日 平成19年9月15日  
【東京事務所】  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿1 13 8 302  
TEL 03 3352 6281  
FAX 03 3341 5048



# 東京白楊だより

第30号 追補版  
平成19年.10.0 (2007年)  
丘会部 楊ヶ谷支部  
白同東 京支

## 同期会だより

第58期

藤原正樹記

### 「卒業してから半世紀」

ふるさとは遠きにありて 思ふもの  
そして 悲しくつたつもの  
よしや  
うらぶれて 異土の<sup>かたい</sup>食となつても  
帰るころに あるまじや

これは室生犀星の詩の一節です。まことに ふるさとは 懐かしいもの 忘れられないもの ありがたきものです。

卒業以来半世紀、函館中部高校58期同窓生（昭和31年卒）の卒業50周年記念同期会が昨年9月27日から29日までふるさと函館で行われました。地元函館を始め全国大阪、神奈川、東京から集まった諸兄弟は53名、近來にない盛会でした。27日夜は前夜祭、幹事の三谷君設営の柏木町の居酒屋「ひろこ」で函館料理に舌鼓を打つての和氣藹々たるスタートから始まりました。（函館料理とは烏賊ソーメンとかほっけの開きなどの郷土料理との意味です。）ここは昔乃木神社の近所ということですが、びっしりと住宅が立ち並び往年の面影は全くありません。昔は練兵場からまっすぐ乃木神社まで緑に

包まれた未舗装の道が一本通り、郭公が遠くから鳴くまことに閑静な田舎でした。卒業以来50年ぶりにお会いした方々は、お互い相手が判らず最初は当惑しましたが、話しているうちに思い出して来ました。紛れもなく昔の面影が残っています。話しも尽きないのでが予定の時間となり閉会しました。二次会まで行った元気な御仁もいたようです。

翌日は好天の下、函館組と非函館組とに分かれての団体ゴルフ戦を名門函館ゴルフ倶楽部で行いました。函館ゴルフ倶楽部は湯の川温泉の奥「きゅうしめいち」の別荘に隣接して昭和の始めにオープンした道内でも屈指の古いコースです。山アリの谷アリ、手作りのため微妙な地形の変化もありまことに難しいコースでしたが、途中最高点では恵山から松前の大千軒岳に至るまで津軽海峡を眼下に見下ろす絶景もあり変化に富んだ面白いコースでもあります。この頃乾燥続きのために芝が枯れているところも多く皆さん悪戦苦闘をされましたが、僅差で遠征組が勝ちました。函館組が遠路の客に配慮して勝たせてくれたのかも知れません。

その夜は、いよいよ湯の川温泉「丸仙」旅館で同期会です。大量の酒が各種寄贈あり、年柄も考えずに、まさに呑み放題食べ放題の

大宴会となりました。高校時代の思い出話に花が咲き、普段は健康と孫の話が多い諸兄弟も、この夜は50年前にタイムスリップした感がありました。本当にふるさとは有難きかなです。宴が終わっても又同じ会場で二次会、また話しの続きと酒の続きです。よくも話しが尽きず酒も呑み飽きないものです。部屋に戻ってから明け方まで三次会をやられた方々もおられたようです。皆さんお元気でですね。これでは今年も来年も同期会参加は問題がないようです。



楽しく過すことが出来た裏には三谷君、佐藤和子サンを始め幹事の皆様の大変な準備と心配りがありました。末筆になりましたが篤く御礼申し上げます。

●田熊國太郎（33期・昭6年卒）  
会報は毎回懐かしく拝読させていただいております。9月9日で満93歳を迎えますが、同窓会の益々の発展を心から祈り上げます。

●加藤 敏夫（35期・昭8年卒）  
以前は東京支部親睦会に出席していましたが、顔見知りの人が減って出なくなっています。前回の出席者リストに同期の佐藤洋君の名を見付けて「偉い!!」と叫びました。函館は懐かしい所です。

卒業を過ぎて単独行動は無理となり、長男・長女一家の介護で、何とか日々を消光しております。

●風間 憲吉（37期・昭10年卒）  
高齢と歩行も困難につき欠席させて頂きまします。年会費は送金しました。益々のご発展を祈ります。

●河村 泰平（39期・昭12年卒）  
誰も出ない39期の皆さん！私は入院より退院をなし、一人暮らしのため長男宅に身を寄せています。やがて歩行可能となりましたら、元の住いを整理し、一人暮らしのため左記に移ります。

〒179-0072 東京都練馬区光が丘3-9-3  
【河村邦泰】方 ☎03-5383-5128

●椿田 和彦（39期・昭12年卒）  
白楊だより御惠贈有難うございました。御盛會をお祈り致します。最近では京都までの外出も面倒になりました。まだ診療に従事しておりますが患者は少なく、年寄には最適と思っております。然し医学

### 会員短信

平成18年9月以降の会費の振替用紙のメッセージから

医療の進歩は昔と天地の差がありまして、内科学会の試験問題の解答を提出したりして、勉強しております。

●今井 清（40期・昭13年卒）  
東京白楊だより第29号懐しく拝見しております。特に加茂さんのニューヨーク物語は、一九六〇年代に私は、同期の外山君と共に同地に住んでいたこともあり、興味深く読みました。16ページ（寄付金のご案内）によると、80歳以上の会員は年会費免除になっております。私は85歳です。三千元お送りしますので、年会費でなく寄付金として下さい。

●室谷 國男（40期・昭13年卒）  
年齢の関係か体調不良が治らなずガツカリです。長期の外出が出来ず欠席させて頂きまします。吾々の仲間は毎年少なくなつて来ているのですが、未だ空気を吸っていることを喜びまします。80歳以上は会費免除とありましたが、寄附と言う大げさなものでありません。志位にして御受取下さい。私は体調が良くなく大会は不参加になりますので宜しくお願い致します。

●小川原 清（45期・昭18年卒）  
同窓会便り半日かけて読みました。思い出乍ら楽しい半日でした。これからもこのようなものを作ってください。

●篠田 作衛（47期・昭20年卒）  
東京白楊だより有難く落掌し、殆ど全巻読破しました。金子支部長のご挨拶の中に、黒字化達成が報じられており、ご同慶に堪えません。又全巻を通じ役員の方々の新アイディアやご苦労が溢れてお

り、誠に嬉しく声援申し上げております。

●寺井 滋 (49・50期・昭22・23年卒)

後輩の皆さんのご努力に対し深謝致します。同窓会・クラス会も卒後50年位までは熱意があります。喜寿も近くなると下り坂になります。同期の出席も少なく、出席者の間に年代の格差を感じます。過去の思い出にひたっています。

●石川 武徳 (51期・昭23・24年卒)

パーキンソン病、心臓病、糖尿病で入院しております。もう歩くことも出来ません。同窓会行事にも参加することが出来なくなりました。

●鈴木喜三郎 (53期・昭26年卒)

心身ともに健全。

●延原 昌樹 (53期・昭26年卒)

同窓会会報楽しみに読ませていただいています。

●佐々木鐵雄 (55期・昭28年卒)

70歳過ぎたので今回で最終にさせていただきます。

●澤田 経子 (56期・昭29年卒)

お陰さまで元気で70歳を迎えることができ感謝。これからも出会いを大切に「いよよ輝く命なりけり」を願っています。

●藤本 一郎 (56期・昭29年卒)

第30回同窓会楽しみにしております。時代の流れ、あらためて感じられます。

●奥村ヒデ子 (57期・昭30年卒)

「東京白楊だより」にて函館の風景を懐かしく思っ拝見していただきます。

●小竹 嘉子 (57期・昭30年卒)

毎回の会報楽しみにしております。充実したお知らせをいつもありがとうございます。感謝です。

●堀江 郁子 (57期・昭30年卒)

函館の実家がなくなつて心はぼっかり穴があいたようです。四角い電柱は函館谷地頭にあります。

●吉田 泰彦 (58期・昭31年卒)

「東京白楊だより」楽しみにしています。

●伊藤 紀子 (60期・昭33年卒)

東京白楊だよりのご送付ありがとうございます。事務局諸兄弟へ感謝申し上げます。故郷函館、函中に連なる方々のお幸せを祈ります。老境に入りよい年を重ねていきたいと思っております。

●岩淵 安隆 (60期・昭33年卒)

7月に2度目の利尻島、初めての礼文島に行ってきました。8年前、北海道山歩き的第一步が利尻岳、その後3週間近く山歩きをして、最後は函館でした。懐かしい思い出です。

●佐藤 裕子 (60期・昭33年卒)

東京白楊だよりで函館をなつかしく思い出します。毎年一人で住んでいる妹に会う為函館を訪れます。立待岬のはまなすの花の香に酔いしれてきました。

●武田 至正 (60期・昭33年卒)

同窓会開催日は早め(年初or6ヶ月前)に決まっていると助かります。月半分以下に仕事を減らし、健康管理、遊び、趣味にシフトした生活に切り替え、楽しくやっています。「東京白楊だより」楽しく読ませて頂いております。

●柘澤 森二 (60期・昭33年卒)

日立市で函館での倍以上の年月元気に生活している。しかし生れ育った故郷は何年たっても懐かしいと感ずる。

●菊池 紀邦 (61期・昭34年卒)

昨年は入院のため山梨大学付属病院の7階病室から気持ちのみの参加でした。今年は同窓の諸兄の皆様にお逢い出来まことを人生最大の喜びと楽しみにしています。

●遠藤 隆三 (62期・昭35年卒)

会員短信に載せて頂きありがとうございます。35会の新年会に卒業以来46年振りに参加させて頂き、感謝感動しました。

●須山 慶子 (62期・昭35年卒)

娘が七飯町に住み、そのつれあいは函館市役所に勤務しておりますので、孫の世話をしに時々函館へ行き、函館を身近に感じています。

●中村 良誠 (63期・昭36年卒)

第29号白楊だよりありがとうございます。楽しく拝読させて頂きました。幹事の皆様これからも宜しくお願い致します。

●成谷 節 (63期・昭36年卒)

友人たちの訃報に接する度に、会える時は会っておかなければ、出来るだけ自分の活動もしなければ、と思うこの頃です。

●田中 公子 (64期・昭37年卒)

同期の加藤美以さんが7月死去、5月に函館探訪の旅へ一緒したところでした。去年は泉さん、親しい友人を次々と亡くし落ち込んでいましたが、同期の方たちに助けられました。

●上原 勝雄 (66期・昭39年卒)

3月で定年となり、念願の海に近い田舎暮らしを楽しんでいます(4月に引越しました)。

●新谷 真秀 (67期・昭40年卒)

「同期会報告」を毎回楽しみにしています。いつも自分の卒業年

度を探して読んでしまいます。いつまでも函館をそして函中を忘れないでいきたいと思っております。

●中川 真 (67期・昭40年卒)

ジェフ千葉と関りのある仕事をしています。フクダ電子アーリーナ(フクアリ)にぜひ観戦に来て下さい。ピッチと観客席が近く臨場感のあるスタジアムです。京葉線蘇我駅から徒歩8分です。

●ロビンソン尚子 (67期・昭40年卒)

いつも通信をいただき感謝しております。仕事の都合で出席が叶わないのが少々残念ですが、今後ともよろしくお願い致します。

●丸山 隆 (68期・昭41年卒)

還暦が近くなり、次の人生のための決心を致しました。近々新しい仕事についてお知らせ出来る予定です。

●堀口 正 (69期・昭42年卒)

函館にUターンしました。

●横山久美子 (69期・昭42年卒)

ご苦勞様です。白楊だより楽しく読んでおります。

●小坂 繁 (70期・昭43年卒)

8月13日バスケット部OB会に出席し、38年ぶりで先輩、後輩、同期のメンバーと会って来ました。バスケット健在でした。

●川村 哲雄 (71期・昭44年卒)

平成18年度第71期同期会を6月17日(土)午後4時から三菱重工横浜ビル33階「スカイラウンジ」で開催しました。参加者一次会と二次会合わせて29名で、初参加は3名、約半数がさらに三次会まで残り、延々7時間余の宴でした。

●塚田 晴康 (72期・昭45年卒)

黒字化おめでとうございます。

役員の皆様御苦勞様です。

●千島 秀子 (75期・昭48年卒)

函館へ帰るのは親の法事と甥姪の結婚式くらいで、会報なつかしく読ませてもらいました。

●清水 真 (82期・昭55年卒)

平成19年4月に明治大学法科大学院教授に就任しました。

●関村 恒世 (85期・昭58年卒)

事務局の皆様いつも本当にありがとうございます。会報いつも楽しく拝見しております。

第31回親睦大会案内に、当日の会費が明記されておられませんでしたが、今回も例年通り、八千円とさせて頂きます。なお、終了は午後5時を予定しております。記載漏れがありましたことをお詫び致します。

お詫びと訂正

過日発行いたしました第30号について、編集上の不手際が生じたため、ここに追補版を発行するに至りました。58期の皆様を始め多大なご迷惑をお掛けしました会員の皆様、深くお詫び申し上げます。また、左記の通り誤りがありましたので、併せて訂正してお詫び申し上げます。

- 【訂正】
- 13ページ1段18行目 藤原先生↓(正) 藤山先生
  - 14ページ5段 高尾忠良↓(正) 52期・昭25年卒 飯田 繁↓(正) 飯島 繁
  - 15ページ「ご寄付御礼」 工藤亮二・平成18年没↓(正) 19 三上理一朗様↓(正) 理二郎様